

東京大学

理学部広報

第3巻 第8号 昭和46年10月1日

8月理学部会合日誌

16日(月) 12:30~13:40 理職との会合
20日(金) 10:00~12:00 人事委員会
15:00~17:00 教務委員会

9月理学部会合日誌

3日(金) 16:00~18:00 改革についての懇談会(天文・地球物理)
4日(土) 14:00~16:00 改革についての懇談会(地質・鉱物・地理)
6日(月) 14:00~16:00 専門課程主任会議
16:00~18:00 改革についての懇談会(動物・植物・人類・生物化学)
7日(火) 10:00~12:00 総合計画委員会
8日(水) 13:00~15:00 教務委員会
13:00~15:00 会計委員会
15:00~17:00 主任会議
9日(木) 15:15~17:00 人事委員会
16:00~18:00 改革についての懇談会(数学)
10日(金) 14:00~16:00 改革についての懇談会(物理)
13日(月) 14:00~16:00 理学系研究科委員会
14:30~18:30 改革についての懇談会(化学)
18日(土) 13:00~15:00 総合計画委員会
20日(月) 13:30~14:30 理系自治会と学部長会見
15:00~17:00 入試委員会(修士)

22日(水) 13:00~17:00 教授会

27日(月) 大学院入試(第1次)

教授会メモ

9月22日(水) 定例教授会 於4号館物理会議室

1. 前回議事承認
2. 人事異動等報告
学内状況

○ 農学部キャンパスの諸問題は夏休み中の各部局の御努力により好転のきざしが見えはじめています。地震研究所では9月16日に職員との会合をもった。力武所長は辞任され大沢教授が所長事務取り扱いとなって話し合いが行なわれている。

○ 応用微生物研究所は丸尾所長が辞任され池田教授が後任となられた。

○ 大学などでの薬品類の保管について、新聞誌上でも見られるように、他大学で二三の問題があった。本理学部の各部局でも十分注意されるよう。

○ 第2次定員削減の件はかねがね問題となっていたが、この度教官1%、一般職員9%(ただし教室系一般職員は6%)の線に決った模様である。

○ 進学振り分けが近くあるので各教室ともよろしくお願ひしたい。

○ 改革室のメンバーが決った。

室長: 加藤一郎, 室長代理: 向坊 隆

○ 建築委員会が開られ、長期計画について本年10月に中間報告、46年度末に第1次計画(本郷キャンパスのマスタープラン、都内周辺キャンパスの諸問題)、

47 年度末に第 2 次計画。

○ 全学一般教育セミナーが募集中であるのでよろしく
 お願いしたい。

3. 教養学部第四学期専門科目履修規則の一部を改正
 する規則(案)について(理学部規則の改正): 大木
 教務委員長より説明

4. 研究生の入学に関する件

5. 評議員選出の件: 大木評議員が再選された

6. 人事委員会報告(今井委員長)

8 月 20 日に開られた人事委員会についての報告
 があった。

7. 会計委員会報告(島内委員長)

9 月 8 日に会計委員会が開かれ、部長保留金の配
 分案を作成した。

また、電気・ガス・水道の経費がかなりの額になっ
 ているので、できるだけ節約していただきたい。

なお、1970年度の理学部での使用料で、水道: 1900
 万円、ガス: 1490 万円、電気: 597 万円、電話: 1091
 万円、であり、この総額は化学教室への配分額の 1.2
 倍程度で校費総額(旅費は含まず) 369,678,000 円に
 対して 13% にもなっている。

○ 臨海実験所に附属している水族館の公開を中止する
 との報告が木下所長から述べられた。これで同館の数
 十年にわたる歴史が閉じることになった。

8. 教務委員会報告(大木委員長)

臨時カリキュラムの専門課目の認定について報告、
 また、学士入学および転学科の件についての相談がさ
 された。また、小松委員から数学の臨時カリキュラムに
 についての報告があった。

委員の交代があり、新委員は次の通り

教 務 委 員

小 松 彦 三 郎 (数 学)
 岸 保 勘 三 郎 (地球物理)
 (新) 高 橋 武 美 (化 学)
 (新) 飯 田 修 一 (物 理)
 (新) 吉 川 虎 雄 (地 理)
 (新) 代 谷 次 夫 (動 物)

9. 総合計画委員会報告(河田委員長)

10. 幹事会報告(後藤幹事長)

9 月初旬の数日にわたって行なわれた各教室との懇
 談の結果について報告があった。

○ 四年一貫教育、学部研究所再編成などについての基
 本方針を検討する全学的な委員会(研究教育組織専門
 委員会)の委員として朽津教授が指名された。

教官人事移動 (除退・休職)

| 氏 名 | 所 属 | 発 令 事 項 | 発 令 年 月 日 |
|------|-----|---------|-----------|
| 中井浩二 | 物 理 | 助教授に昇任 | 46. 8. 1 |
| 田隅三生 | 生 化 | 助教授に昇任 | 46. 8. 1 |
| 豊増 翼 | 人 類 | 助手に採用 | 46. 8. 16 |
| 平井百樹 | 人 類 | 〃 | 46. 9. 1 |
| 中田敏夫 | 生 化 | 〃 | 46. 9. 1 |
| 朝野洋一 | 地 理 | 〃 | 46. 9. 1 |
| 曾田邦嗣 | 物 理 | 〃 | 46. 9. 16 |
| 福原真二 | 数 学 | 〃 | 46. 10. 1 |
| 小西芳雄 | 数 学 | 〃 | 46. 10. 1 |

外国 人 研 究 員

教室(所属) 化 学

国籍 アメリカ合衆国

氏名 Robert K. Bohn

現職 Assistant professor, Department of Chemistry
 The University of Connecticut.

研究期間 昭 46. 9. 7~47. 9. 6

理学博士学位授与者

(46. 7. 19 付)

| 専門課程 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|------------------------|------|---------------------------------------|
| 生物化学 | 山形秀夫 | 大腸菌の F 因子の複製に関する研究 |
| 同 | 深見博一 | メッセンジャー RNA の高次構造による翻訳の制御 |
| 学位規則 第 3 条 2 項該当 | 中島勝也 | 関数方程式の数値解の単調性、 最大値原理と収束性 |
| 同 | 植松俊夫 | 混雑問題の統計数理的解析 |
| 同 | 末広輝男 | (p, t) 反応による $N=28$ 近傍核 の芯励起状態 |
| 同 | 小島伸夫 | 千葉県北部の上部成田層群の堆積作用について |

訂 正

理学部広報第 3 巻第 7 号(昭 46. 7. 25) 中の字句
 を次のように訂正します

誤 正
 4 頁右下から 5 行目 約償円で 約 4 億円で

お 知 ら せ

○ 昭和46年度 仁科記念奨励金 (第 16 回)

この奨励金は、故仁科芳雄博士の功績を記念し、原子物理学およびその応用に関する研究の発展に資することを目的としております。

贈 呈 対 象

原子物理学およびその応用に関する研究にたずさわる個人または集団とします。

直接原子物理学に係わるものに限らず、化学、生物学、工学、医学、農学等すべての分野を通じて、原子物理学に深い関連のある研究を含みます。

研究は、すでに途上にあるものでも、これから開始するものでもかまいません。

過去に申込まれて選考にもれた方でも、再度お申込みいただいても差し支えありません。

奨 励 金 の 額

本年度は総額 600 万円です。これを数件の研究に対

して贈呈いたします。

申 込 み の 方 法

所定の申請書によってお申込み下さい。申請書は、返信用封筒 (15 円切手添付) を添えて、本財団あてご請求下さい。

申 込 み の 期 限

昭和 46 年 10 月 15 日

選 考

申請書にもとづき、専門学者の意見を参考として、本財団の選考委員が行ないます。

決定発表は昭和 46 年 12 月 6 日頃の予定です。

奨 励 金 の 使 途

研究者に一任し、特別な制限はありません。

財団法人 仁科記念財団

113 東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 45 号

電 話 (942) 1718, (946) 7111

編集 和田昭允

理・1号館 217号室 内線 2298